

アイランダー高校生サミット2025開催決定

本誌編集部

二〇二五年二月二日(日)開催

本財団では、包括連携協定を締結している大正大学と共同で「アイランダー高校生サミット2025(以下、サミット)」を、二〇二五年二月二日

(日)にオンラインにて開催いたします。

サミットは、全国の離島に所在する高校などに通う生徒をオンラインで結び、それぞれの島が持つ可能性や島同士で交流することの意味や価値などの議論を通して、生まれ育った島に対する愛郷心を育み、将来の島づくりを担う人材の育成を目的としています。

今回が三回目の開催で、昨年度は全国八都道県一八校から五六人の離島高校生が参加し、自分たちの島の魅力や

離島ならではの悩みなどを共有しながら、地域振興や課題解決につながるアイデアやソリューションについて考え、その検討結果を「島の暮らしを良くするための〇〇革命」として発表しました(※1)。

響かせよう、

しまの高校生たちの声!

サミットの企画・運営は、離島の高校に通う生徒一人(原則的に前回の参加者から選定)と、大正大学生五人で構成する実行委員会(次頁の名簿参照)が担います。

今年度のテーマは「潮の音鳴らせ 我らの離島」しまの高校生、100人会議」。これには、それぞれの島に暮

らす高校生たちが持つ、なかなか言葉にできない想いや内に秘めたままの感情を、お互いが声に出して語り合うことで、新しい未来を切り開く大きな波を創ろうという気持ちが進められています。

七月三十一日(木)一五時より、実行委員会たちが東京に集まり、文部科学省でサミットの開催記者発表を行ないました。昨年度の開催報告では、成果の一つとして、鹿児島県立与論高校三年(当時)の松井美海さんと長崎県立奈留高校二年(同)の福山魁貢さんがサミットで出会ったことをきっかけに本年度からスタートした「与論高校×奈留高校対面交流プロジェクト」について紹介しました。



アイランダー高校生サミット2025の実行委員たち。

その後、高本汐音しおん委員が今回のサミットの開催概要や目標について説明。続いて、「自分の将来、島の未来について考え、語り合える機会にしたい（泉和穂委員）」「同年代の島の高校生たちと

大学生実行委員

田中晴樹（大正大学地域創生学部4年）、高本汐音（同左）、木坂愛天音（同学部3年）、鈴木健真（同左）、中島理沙（同大学社会心理学部4年）

高校生実行委員

板垣秋佳里（北海道奥尻高校3年）、谷茂岡光（東京都立新島高校2年）、山本三晴（新潟県立佐渡総合高校2年）、古泉壺子（広島県立大崎海星高校2年）、佐藤 碧（同広島鞆智学園高校2年）、鈴木陽向（島根県立隠岐島前高校2年）、田中楓夏（愛媛県立引削高校2年）、泉和穂（長崎県立五島海陽高校3年）、福山魁賢（同奈良留高校3年）、吉川陽風海（鹿児島県立徳之島高校2年）、川上紗寿（同与論高校2年）

の交流を通して、心強いかけがえのない仲間を作りたい（谷茂岡光委員）」「サミットで得たアイデアなどを自分の島に持ち帰って、地域のために役立てたい（山本三晴委員）」など、各高校生委員が自らの言葉でサミットに懸ける想いや意気込みなどを語りました。

記者発表には新聞社や通信社をはじめ多数のメディアが集まり、その模様はさまざまな媒体で報じられました。

離島高校生の積極的なご参加を！

現在、サミットに参加する離島の高校生を募集中です！ 申し込みは公式ウェブサイト（※2）から行なうことができます。九月末までにエントリーした参加者を対象に、一〇月に事前交流会（オンライン）を開催予定ですので、早めの申し込みをおすすめします。

また、サミットに関心のある生徒、親御様、教育関係者の方々からのご相談や問い合わせも受け付けております（問い合わせ先は左記参照）ので、気軽にご連絡ください。

離島高校生の積極的なご参加をお待ちしております。
（森田）



※1



※2

アイランダー高校生サミットに関する
ご相談・お問い合わせ

（公財）日本離島センター

03・3591・1151（森田）